

Better Health, Brighter Future



個人投資家向け会社説明会

# 2013-2017 中期成長戦略 (2014年度アップデート)

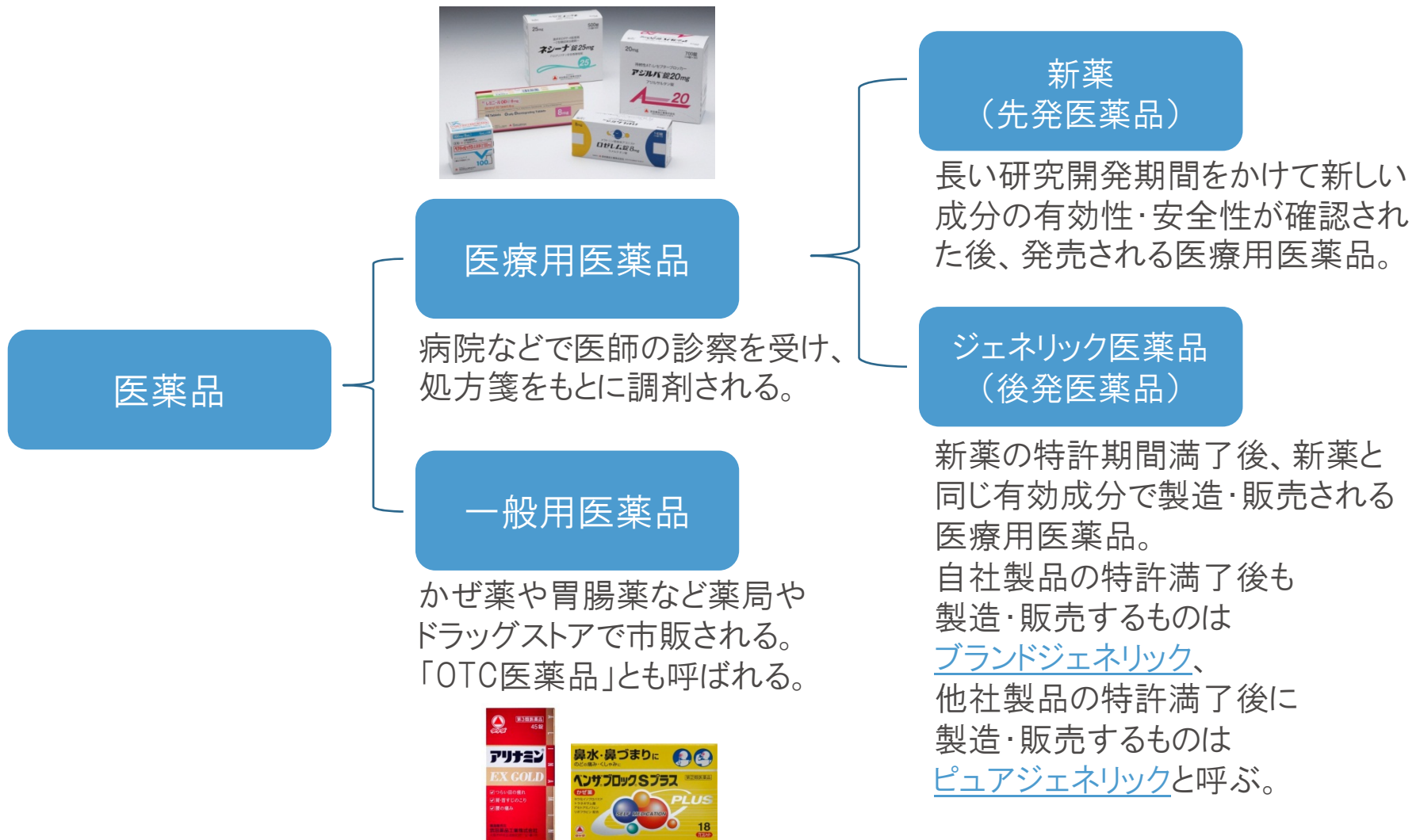
武田薬品工業株式会社(証券コード:4502)  
財務統括部  
2014年 11月

武田薬品工業株式会社



- 医薬品業界の特徴
- 当社の現状
- 当社の中期成長戦略

# くすりの種類





## 魅力

患者さんの生命・健康の維持、  
回復、生活の質の向上に貢献

高齢化社会への進展などによる市場拡大

付加価値の高い革新的な  
新薬の上市による高い利益成長

## リスク

先進国における薬剤費抑制策  
強化に伴う新薬市場の  
成長率鈍化

米国における特許期間満了に  
伴う急激な売上減少

研究開発における  
低い成功確率

# 新薬の研究開発（創薬から発売までの道のり）



長い研究開発期間(9～17年)と膨大な研究開発費(1,000億円以上の新薬も)

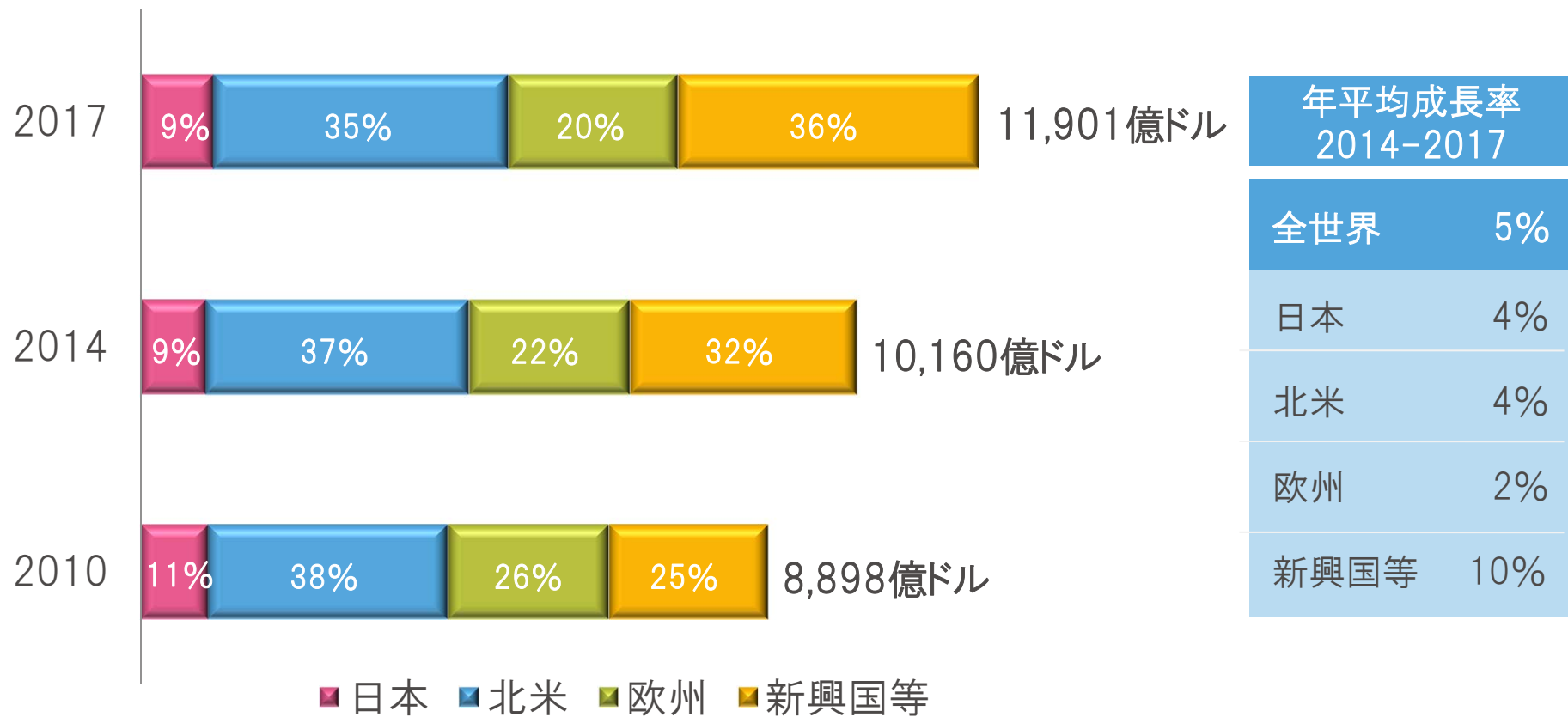


出典：日本製薬工業協会

# 世界の医薬品市場の推移



世界市場は年平均5%で成長  
 新興国を中心とする市場が成長を牽引、世界市場の36%を占めるまでに

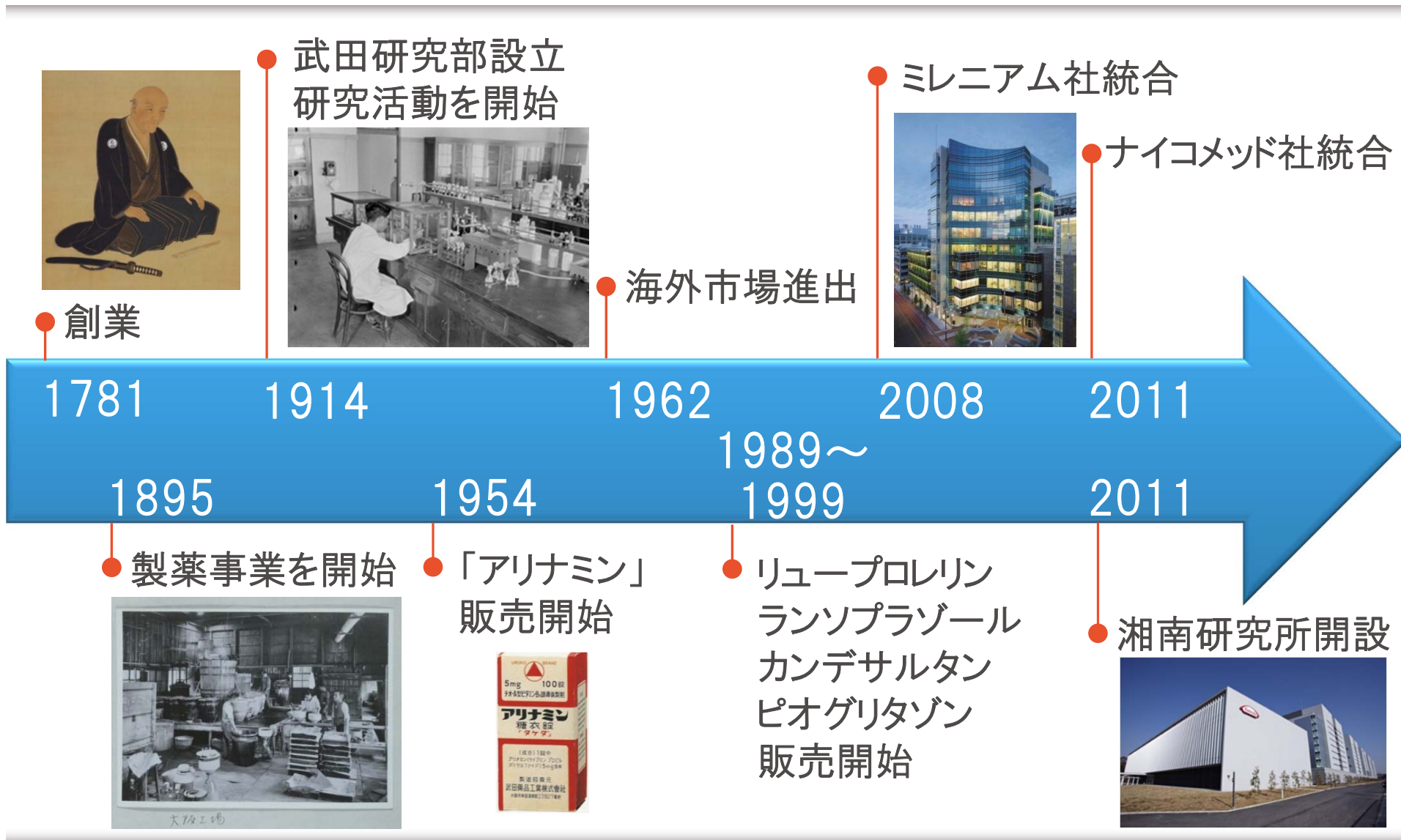


©2014IMSヘルス「Market Prognosis Global 2014-2018 May」をもとに作成 無断転載禁止



- 医薬品業界の特徴
- **当社の現状**
- 当社の中期成長戦略

# 事業の変遷(タケダの歴史)







## ミレニウム社の買収・統合 — がん領域の強化

- 2008年5月（買収金額:88億ドル）
- がん領域を次世代の中核領域へ
- ベルケイドをはじめとした有望な製品・パイプラインの獲得
- 質の高い研究～開発～販売に至るフルライン機能の当社事業への高い補完性

## ナイコメッド社の買収・統合 — 新興国事業の強化

- 2011年9月（買収金額:96億ユーロ）
- 新興国市場を中心とする事業基盤の強化（進出国数は28カ国から70カ国以上に）
- ナイコメッド社の販売網を通じたタケダ製品・パイプラインの価値最大化
- 多様な人材の獲得により企業文化の変革を促進

# 世界の製薬企業 2013年売上ランキング



	会社名	所在国		会社名	所在国
1	NOVARTIS		11	AMGEN	
2	PFIZER		12	ABBVIE	
3	SANOFI		13	BOEHRINGER INGEL	
4	MERCK & CO		14	BAYER	
5	ROCHE		15	NOVO NORDISK	
6	GLAXOSMITHKLINE		<b>16 TAKEDA</b>		
7	JOHNSON & JOHNSON		17	ACTAVIS	
8	ASTRAZENECA		18	MYLAN	
9	TEVA		19	BRISTOL-MYERS SQB.	
10	LILLY		20	GILEAD SCIENCES	

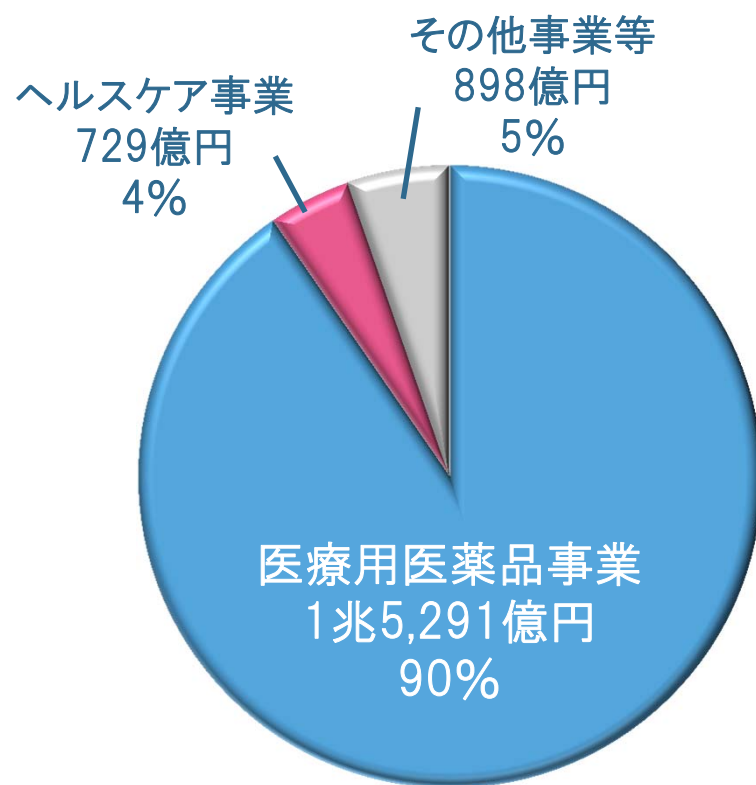
©2014IMSヘルス「TOP 20 GLOBAL CORPORATIONS 2013」をもとに作成 無断転載禁止

# 売上収益の事業別・地域別内訳

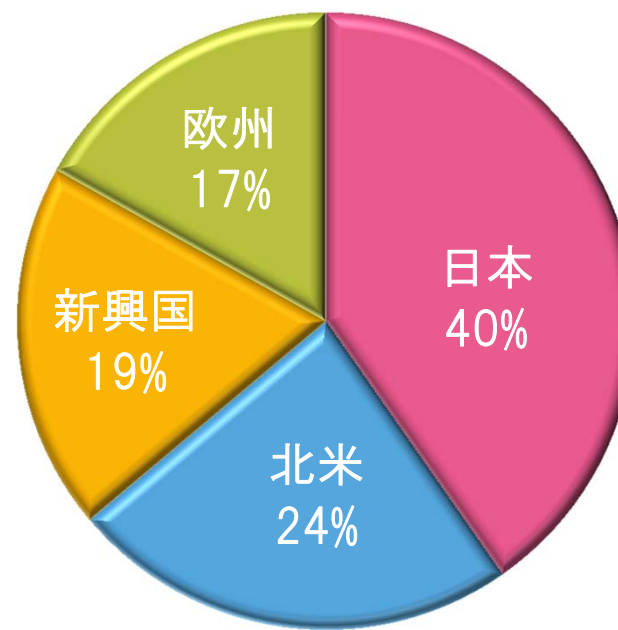


## 2013年度連結売上収益 1兆6,917億円

### 【事業別売上収益】



### 【医療用医薬品事業】 地域別・製商品売上収益



# 主力製品の全世界売上高 (1/2)



## 代謝性・循環器系疾患

**ネシーナ**  
2型糖尿病治療剤  
(404億円)



**アジルバ**  
高血圧症治療剤  
(253億円)

**ブロプレス**  
高血圧症治療剤  
(1,550億円)



## 消化器・腎臓系・その他疾患

**タケプロン**  
消化性潰瘍治療剤  
(1,184億円)



## 中枢神経系疾患

**レミニール**  
アルツハイマー型  
認知症治療剤  
(123億円)



**ロゼレム**  
不眠症治療剤  
(101億円)



注：( )内の数字は2013年度売上高



# 主力製品の全世界売上高 (2/2)



## 免疫・呼吸器系疾患



### ユーロリック

痛風・高尿酸血症治療剤  
(269億円)



### コルクリス

痛風・高尿酸血症治療剤  
(519億円)



### ワクチン (MRワクチン)タケダ

乾燥弱毒生  
麻疹風しん  
混合ワクチン

## がん



### ベルケイド

多発性骨髄腫治療剤  
(951億円)

### リュープリン

前立腺がん・乳がん・  
子宮内膜症治療剤  
(1,243億円)



### ベクティビックス

直腸・結腸がん治療剤  
(194億円)

### アドセトリス

悪性リンパ腫治療剤  
(136億円)



注：( )内の数字は2013年度売上高



多様な医療ニーズに応えられる  
真のグローバル製薬企業への変革に挑戦

新製品の迅速な立ち上げと成功

研究開発生産性の向上によるパイプラインのさらなる充実

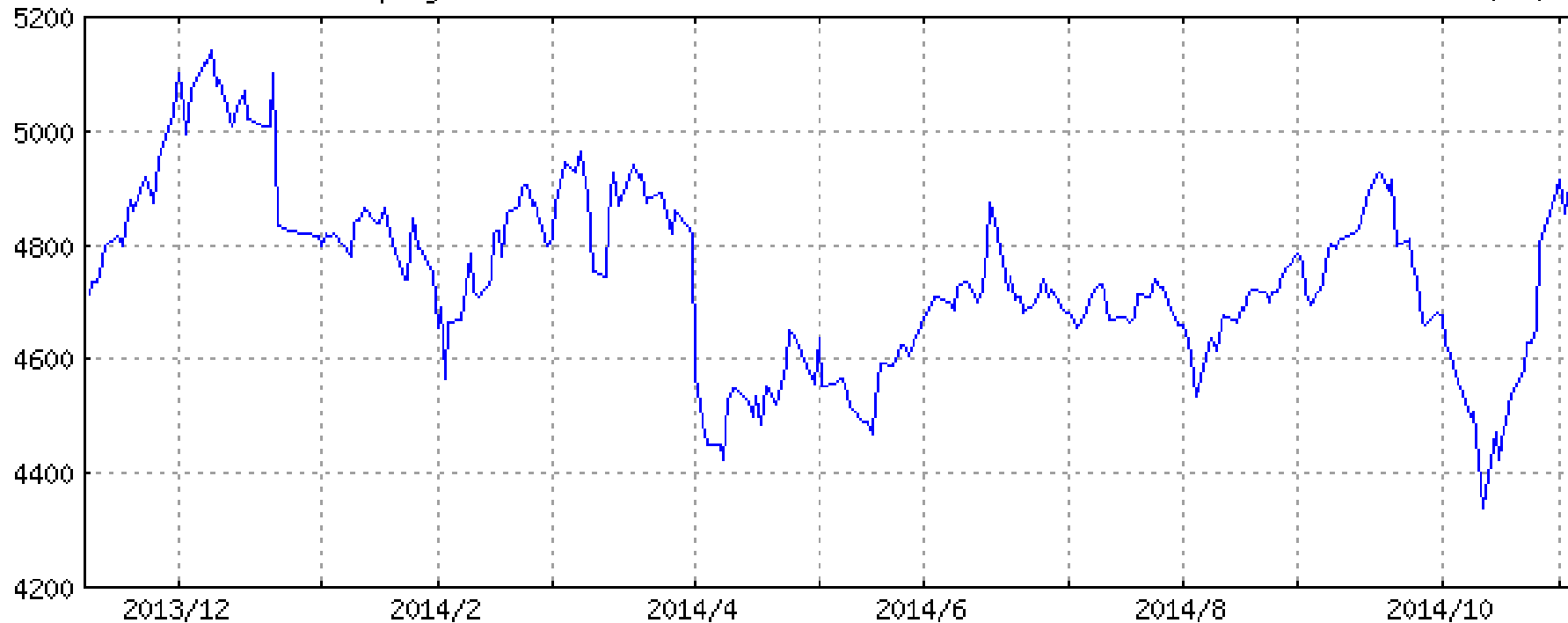
グローバル製薬企業に相応しい事業運営体制の確立・運営

# 当社株価の推移



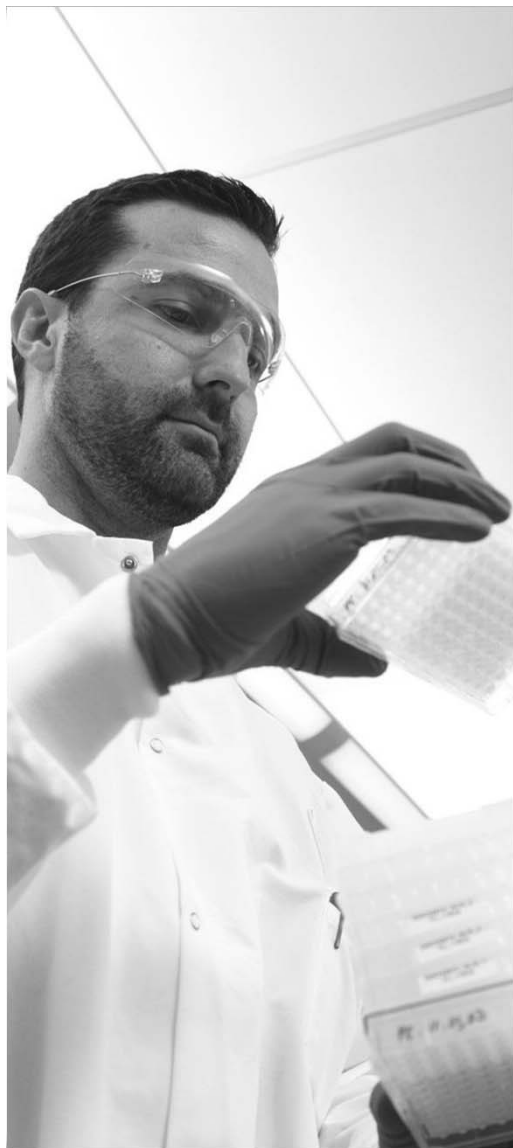
Takeda Pharmaceutical Company Limited

2014/11/10



(C) 2014 Yahoo Japan Corporation.

<http://stocks.finance.yahoo.co.jp>



- 医薬品業界の特徴
- 当社の現状
- **当社の中期成長戦略**



## ミッション（私たちの存在理由）



優れた医薬品の創出を通じて  
人々の健康と医療の未来に貢献する



## Better Health, Brighter Future

“病気に苦しむ患者さんに、人生のかけがえのない時間を少しでも取り戻していただきたい”創業から230年以上にわたり、タケダはその想いのもと、革新的な新薬の創出を通じて社会に貢献してきました。そしてこれからも、世界のより多くの人々がそれぞれの人生を豊かに過ごせるよう予防から治療・治癒にわたる医療の多様なニーズに応える新しい解決方法を提供していくことが私たちタケダの使命です。

“世界の国々や地域に根を下ろし、それぞれ異なる真の医療ニーズを理解する” “つねに社会に奉仕する気持ちを忘れず、緊迫感とスピード感

を持ち、どこよりも高い効率性を発揮して業界をリードする最適な答えを提供する”ダイバーシティが活きる組織の力を「Global One Takeda」として結集させ、医療の未来を変革する努力を、私たちタケダは続けていきます。

医療に対する飽くなき情熱と人々の生命に貢献するという揺るぎない信念を持ち、世界中の人々がより健康で明るく過ごせる新たな230年を切り拓いていきます。

Our Business  
**Committed to  
Improving Health**

すべては人々の健康のために

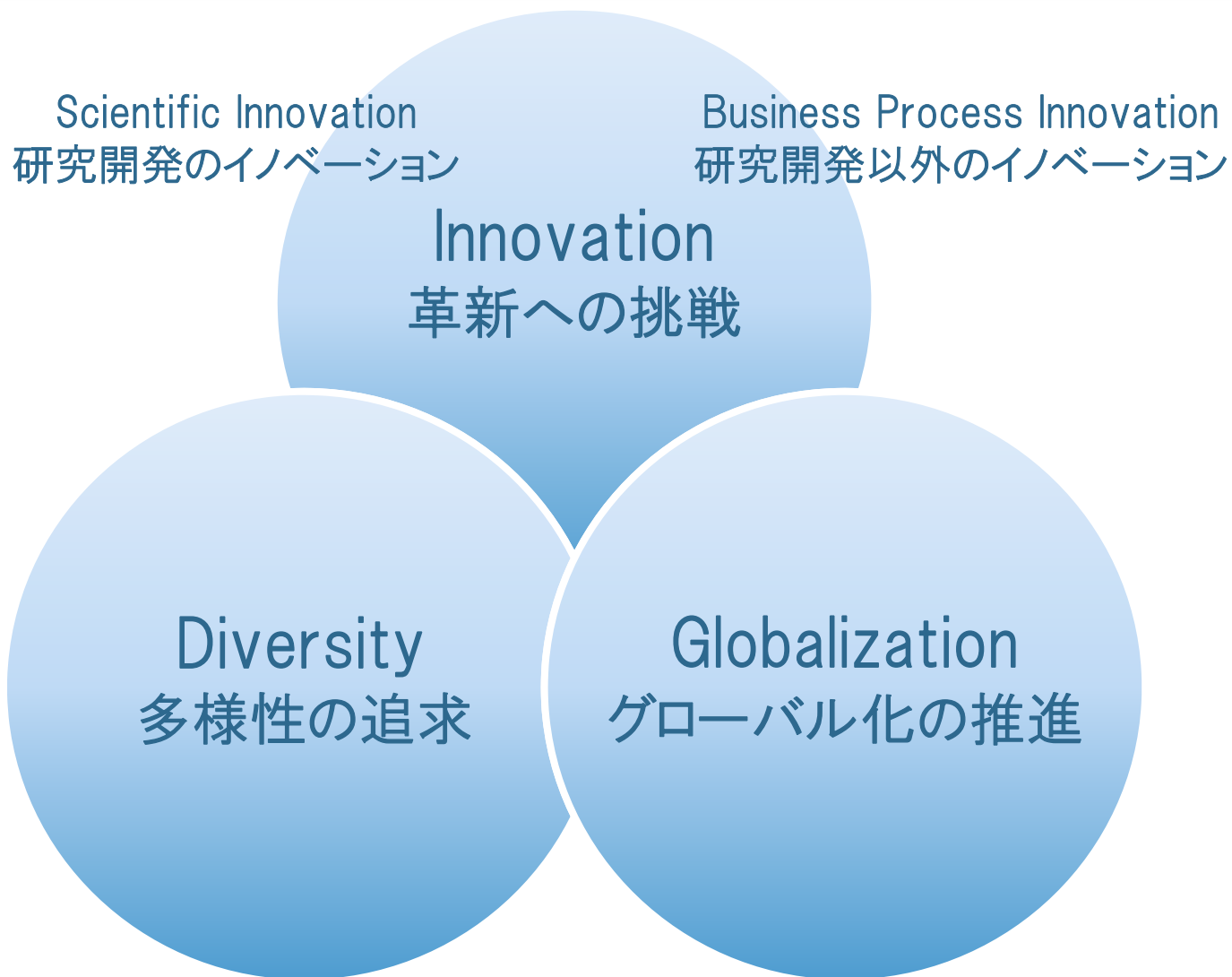
Our Organization  
**Strength  
from Diversity**

ダイバーシティを力に

Our People  
**Powered  
by Passion**

情熱を原動力に

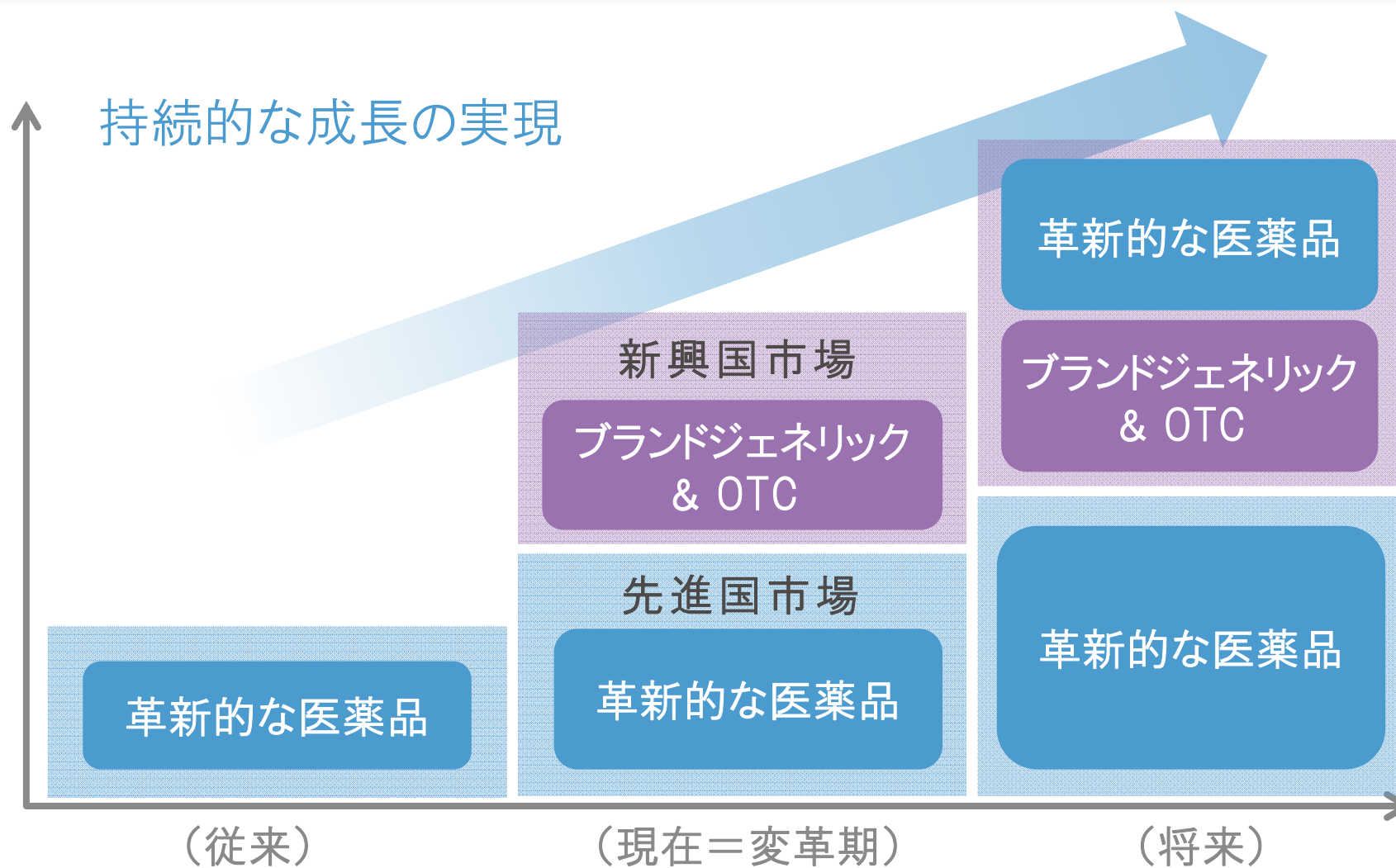
# 中期成長戦略の方針



# 中期成長戦略の持続的成長目標



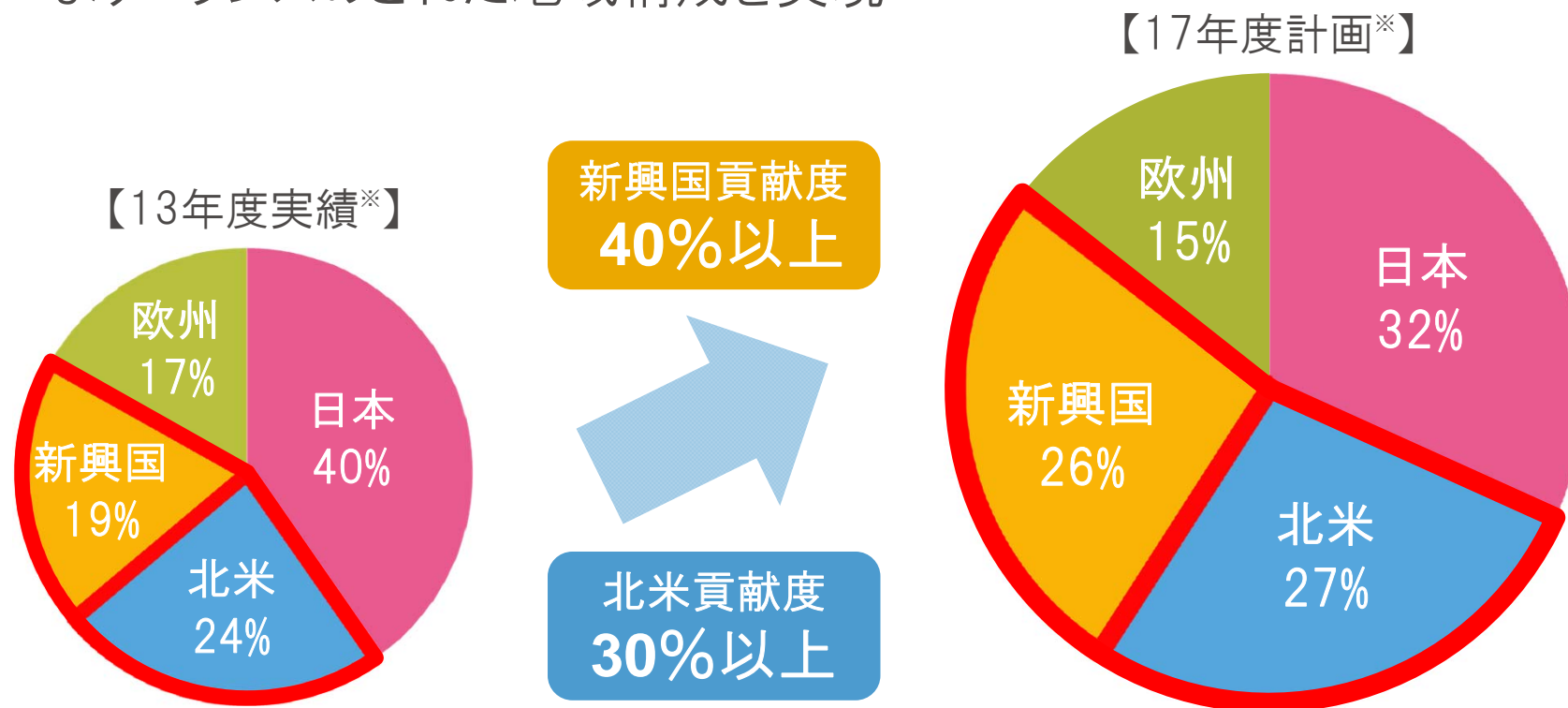
# Globalization(グローバル化の推進)の中期成長戦略



# 売上成長の見通し（新興国と北米が牽引）



- 2013年度 売上収益1兆6,917億円
- 2017年度までの年平均成長率「一桁台半ば」、地域別の成長貢献割合は新興国40%以上、北米30%以上
- よりバランスのとれた地域構成を実現



※医療用医薬品製商品売上高

# 日本市場における中期成長戦略

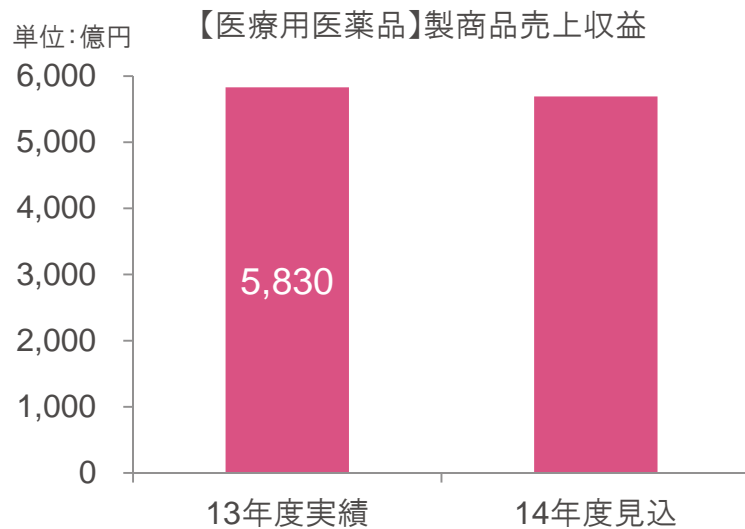


## 国内シェアNo.1の堅持

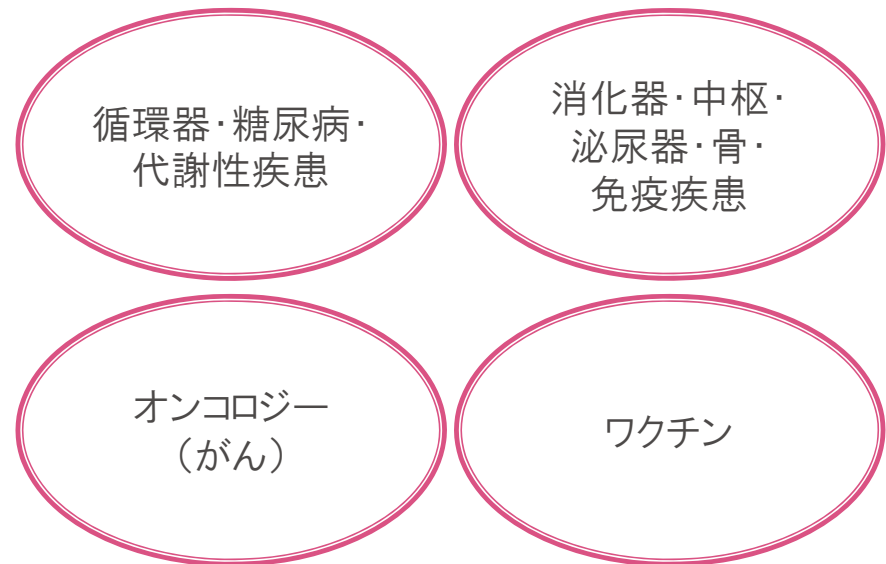
- 新製品の早期売上最大化(ネシーナ、アジルバなど)
- 専門性の高い疾患領域担当MR制の構築
- 大学・研究機関、他社との連携の強化

年平均成長率 2014-2017

当社 約2%



ジェネラルMR体制から  
疾患領域担当MR体制へ





# 米国市場における中期成長戦略

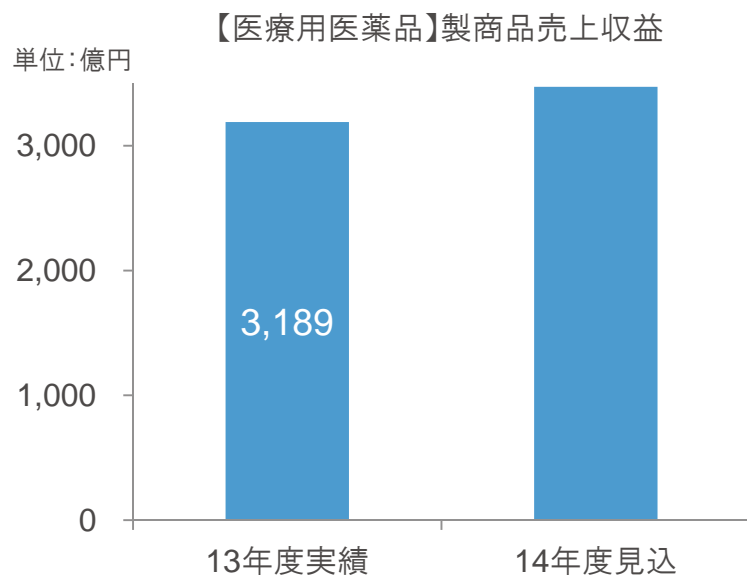


## 治療領域ごとの最適な販売戦略の推進

- 新製品ネシーナ、ブリンテリックス、エンティビオなどへの積極的な投資と早期売上最大化

年平均成長率 2014-2017

当社 約12%



## 製品ポートフォリオの充実 (主な既存品と今後の新製品)

代謝性疾患	中枢神経系疾患	消化器系疾患	がん
ネシーナ ユーロリック コルクリス コントレイブ	ロゼレム ブリンテリックス	デクスラント アミティーザ エンティビオ	ベルケイド MLN9708 MLN8237





# 欧州市場における中期成長戦略

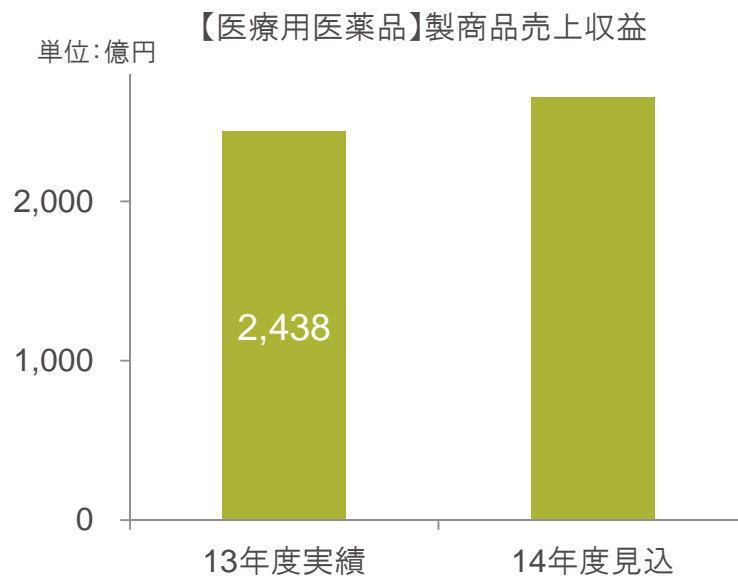


## がんなどの専門領域事業の強化

- パントプラゾールなどブランドジェネリックの売上維持・拡大
- がん、中枢神経系疾患、潰瘍性大腸炎・クローン病などを含む専門領域強化

年平均成長率 2014-2017

当社 約3%



悪性リンパ腫治療剤「アドセトリス」



消化性潰瘍治療剤「パントプラゾール」

# 新興国市場における中期成長戦略

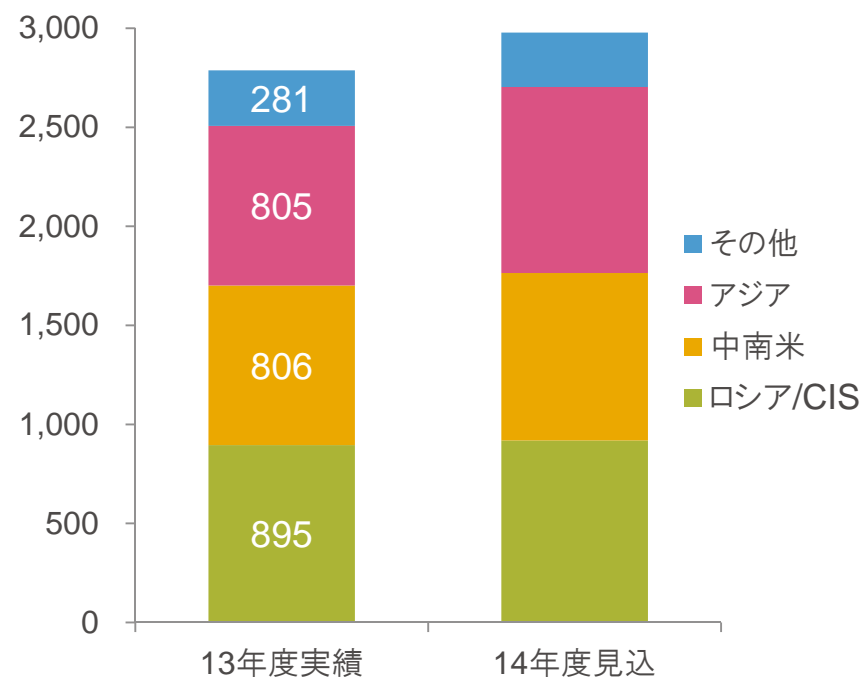


## 市場成長(約10%)を上回る成長(15%以上)を実現

- 市場ニーズの高まりに応える新薬やワクチンを含む多様な製品の上市と市場浸透
- 投資効率を追求した販売戦略の実行

年平均成長率 2014-2017	
当社 15%以上	
	約25% 医薬品の流通・販売経路の新たな仕組みを確立
	13%以上 経済成長が著しい地方都市の競争力を強化
	約11% 市場ニーズに合致した製品構成を実現

単位:億円 【医療用医薬品】製商品売上収益



# Innovation(研究開発のイノベーション)の中期成長戦略



【2015年4月付新体制】

## 4つの疾患領域ユニット

中枢神経系疾患

代謝性・循環器系疾患

消化器系疾患

オンコロジー

ワクチン



- 医療ニーズが未だ満たされない疾患の研究開発を推進し、競争力あるパイプラインを構築
- 臨床開発期間の短縮、化合物の応用機会の追求、外部リソースの専門性活用などを通じて創薬研究の生産性を向上

2つのSpecialty Business ユニット

# 主なパイプラインの承認時期の見通し



		14年度	15年度	16年度	17-18年度
MLN0002	潰瘍性大腸炎 クローン病	★ (承認取得済み)			
CONTRAVE	肥満症	★ (承認取得済み)			
TAK-438	酸関連疾患	→ ★			
SYR-472	糖尿病	→ ★			
TAK-816	Hib感染症予防	→ ★			
MLN8237	血液がん		→ ★		
TAP-144-SR (6ヶ月製剤)	前立腺がん 閉経前乳がん		→ ★		
MLN9708	血液がん			→ ★	
-	ノロウイルスワクチン				→ ★
TAK-003	デング熱ワクチン				→ ★
TAK-850	季節性インフルエンザ ワクチン				→ ★
Motesanib	非小細胞肺がん				→ ★

# Innovation(研究開発以外のイノベーション)の中期成長戦略 強靱かつ効率的な事業運営体制の構築

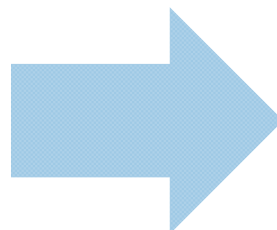


## プロジェクト・サミットの推進

事業のあらゆる面においてグローバルで競争力のある企業への変革を追求した全社的な取り組み

【13年度実績】

コスト削減額 **340億円**



【17年度計画】

**累計1,200億円以上**

### 販売機能

販売・マーケティング組織の再編成、  
グローバルでのブランド戦略推進など

### 研究開発機能

研究開発組織の統合、最適化など

### 製造機能

生産拠点の統合・再編、  
物流倉庫と運送コストの最適化など

### 一般管理機能

経理、人事、IT機能の統合、  
業務プロセスの標準化など

# 2014年度 連結業績の見通し



単位:億円

	2013年度 (年間実績)	2014年度 (上期実績)	2014年度 (年間見込)
売上収益	16,917	8,514	17,250
研究開発費	3,416	1,565	3,500
営業利益	1,393	1,167	1,500
当期利益 (親会社の所有者帰属分)	1,067	614	850
基本的1株当たり 当期利益(EPS)(円)	135	78	108
コア・アーニングス	3,142	1,693	2,800
コアEPS(円)	259	132	228

# 企業の社会的責任(CSR)に関する取り組み



●「京都薬用植物園」開設

1933

1963

●「武田科学振興財団」設立

●「国連グローバル・コンパクト」に参加  
/CSR専任組織の設置



2009

2010

●「タケダ・イニシアティブ」開始

●「日本を元気に・復興支援」



2011



# タケダの企業市民活動



「タケダ・イニシアティブ」  
アフリカにおける  
三大感染症対策の支援



東日本大震災による  
被災地への継続的な支援



「タケダ-Plan 保健医療  
アクセス・プログラム」  
アジアの子どもたちの  
保健医療アクセスの  
向上支援



# 将来見通しに関する注意事項



本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制当局からの承認取得、国内外の医療保険制度改革、医療費抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の需要が得られない場合などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

***Better Health, Brighter Future***



武田薬品工業株式会社